

世界連邦 Newsletter

2014年 1月28日

第621号

発行所



世界連邦運動協会

World Federalist Movement of Japan

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル 3F

電話 (03) 6803-2114 F A X (03) 6803-2117

E-mail: info@wfmjapan.org Twitter: wfmjapan

URL: http://www.wfmjapan.org/

郵便振替 00190-6-29964

1部 100円 (年6回 奇数月1回 28日発行)

海部俊樹会長 年頭挨拶

世界連邦運動協会 会長 海部 俊樹



平成 26 年 (2014 年) の年頭に当たり、みなさまのご多幸をお祈りいたします。

世界連邦運動 (WFM) は、第二次世界大戦後、核兵器廃絶を目的として世界的に広がった平和運動です。

昨年、国連総会で有志国による「核兵器の非人道性を訴える共同声明」に、日本政府がこれまでの態度を変えて、賛同することにしたのは喜ばしいことです。しかし日本政府は核兵器禁止条約の交渉開始を求める決議には賛同しておりません。わたくしどもは、核廃絶日本 NGO 連絡会等を通じて、日本政府が名実ともに核兵器廃絶に取り組むよう働きかけてまいります。

東日本大震災の復興はいまだ道半ばです。

また東電の福島第一原発事故以後、エネルギー行政がどうあるべきか未来の世代に禍根を残さぬため持続可能なエネルギーのあり方を模索するなどの熟議が必要です。

世界連邦運動の主なプロジェクトは国際刑事裁判所 (ICC) の加盟国を増やし、ローマ規程を充実することです。昨年 4 月現在、締約国は 122 ヶ国ですが、アメリカ、ロシア、中国、インド、イスラエルなどの国々が未加盟です。処罰されない罪をなくすために、これらの国の加盟を働きかけていかねばなりません。

シリアで行われている重大な人権侵害のように自国民を守れないもしくは守ろうとしない国の国民に対して、国際社会が責任を負うべきであるという「保護する責任 (RtoP)」を広めるプロジェクトも WFM の重要な仕事です。ただし常任理事国の思惑が反映され、特定の国に対しての政策に利用されやすい懸念があるので履行には注意が必要です。

WFM が掲げている目標として国連の改革がありますが、その具体的方策として国連議員総会 (UNPA) の創設があります。国連は実は、各国の国益がぶつかり合う場であり、より民主的に民意を汲み上げるには、まずは、各国から選出されている国会議員が国連の代表として議論し、やがては世界議会の代表を選出するという仕組みが必要です。ドイツや南米等で活発な運動が展開されているので、日本においても、ひきつづき世界連邦日本国会委員会等と協力して実現に向けて努力して参りたいと存じます。

「第 35 回世界連邦平和促進全国宗教者・信仰者東京大会」開催



さる平成 25 年 11 月 28 日、立正佼成会本部・大聖堂および法輪閣において、世界連邦日本宗教委員会（田中恆清会長＝石清水八幡宮宮司）主催で、「第 35 回世界連邦平和促進全国宗教者・信仰者東京大会」が開催された。今回のテーマは「自然災害から受け継ぐもの——わたしたちは忘れません」というものであった。

本大会に先立ち、立正佼成会本部・大聖堂において、立正佼成会佼成雅楽会による舞楽「蘭陵王（らんりょうおう）」が披露され、本大会名誉会長である庭野日鏡・立正佼成会会長、主催者である田中恆清会長の挨拶が行われた。また檀上において、神道、仏教、キリスト教、イスラム教、教派神道、新宗教の代表者が、それぞれ宗派別の流儀に従い、「世界平和と東日本震災犠牲者慰霊」の祈りを行なった。これは、あらゆる宗教者がその宗派を超えて同じ場所で同じ祈りをささげるといふ、世界連邦実現の可能性を象徴する儀式である。

昼食後、立正佼成会本部・法輪閣に場所を移し、大会開会式が開催された。まず、小田義海・浄土宗教師会副理事長を導師に参加者全員で「祈りの言葉」を唱和してから、前回の大会長である吉田茂穂・鶴岡八幡宮宮司が開会の辞を述べた。ついで、本大会長である渡邊恭位・立正佼成会理事長と実行委員長である田中恆清会長が挨拶をし、来賓を代表して小林正道・日本宗教連盟理事と宇都宮憲爾・世界連邦推進日本協議会理事長が祝辞を述べた。

その後のプログラムでは、NPO 法人「森は海の恋人」理事長で京都大学フィールド科学教育センタ

ー社会連携教授でもある畠山重篤氏が「人の心に木を植える」をテーマに基調講演を行なった。畠山氏は「森は海の恋人」という書を著しており、同書は小学校の社会科の全ての教科書に掲載されている他、'The sea is longing for the forest. The forest is longing for the sea.' という表題で高校の英語の教科書にも掲載されている。畠山氏は宮城県気仙沼市において自ら親族を失うなど東日本大震災の被災者である。本来の氏の仕事であるカキの養殖業での経験から得た、「海洋食料資源は、河川から流れ込む陸上山林樹木の栄養分が重要である。有名な広島産のカキは島根県境のブナ林によって育まれている。1 本の木から 30 万枚の葉が落ち、その栄養分がプランクトンを育て、そのプランクトンがカキのエサになっている。背景の森がしっかりしているか海が決まる。海の環境には川上に住む人々の意識が大切である。」との研究内容を発表された。「三陸沖の豊かな漁場の源は、実は中国大陸の長江などの大河の岸にある樹木の栄養分のおかげである」というご指摘は、そういう点でも世界はつながっていることを示しており、世界連邦運動にも重要なヒントを与えてくださった。最後に氏は「日本の国土の 7 割は森である。これを鎮守の森とみなし、日本の 3 万 5 千の川がつくる汽水域を鎮守の海とみなしてはどうか。ここをしっかりと守る限り、この国は食いつぶぐれがない。そして、そこに住む人々の心の中に木を植えることこそが宗教者の役割である」として講演を結んだ。

さらに田中会長をコーディネーターとして、基調講演もされた畠山氏のほか、宍野史生・神道扶桑教管長、稲場圭信・大阪大学大学院准教授が登壇したパネルディスカッションが行われ、震災などでの宗教者の活動などについての話しがあった。

最後に、桶屋良祐・念法眞教教務総長が被災地の早期復興、宗教者の役割などを盛り込んだ「大会宣言文」が採択され、黒住宗道・黒住教副教主が閉会の挨拶を述べて会は終了した。立正佼成会本部での素晴らしい会場と、良く練られた運営、さらに 1000 人近いと思われる多数の参加者が大会を大いに盛り上げていたのが印象的であった。

（谷本 真邦）

ユース・フォーラム支部が活動を本格化

猪口邦子参議院議員を講師に

第1回グローバル・ハート勉強会

ユース・フォーラム支部は2013年10月中旬より週1度国会委員会事務局に集まってスタッフミーティングを行うとともに、国会委員会事務局の手伝いをしている。谷本真邦支部長の指導のもと、若者・学生たちが国会委員会未加入の国会議員約600人に1度、2013年7月に初当選した参議院議員には2度、国会委員会への入会を呼びかけ、会員を6名増加させた。

また、学生・若者を対象に「グローバル・ハート勉強会」を連続開催していくことを決定、第1回勉強会を2013年12月17日に開催した。



その会合では、国際的な活動を行なっている学生団体8団体が1団体5分で各団体の取り組みを発表、続いて谷本支部長が世界連邦の運動・歴史・理念に

ついてわかりやすく話した。

さらにメイン講師の猪口邦子・国会委員会常任理事が国際政治の現状について歴史的な流れを踏まえながら解説した。「唯一の被爆国日本は核軍縮を先導していく責務があり、また日本がこの件について発言すれば世界はそれを尊重する。今後は大量破壊兵器に加えて通常兵器・小型武器の軍縮にも取り組んでいかねばならない。」と強調した。

世界連邦実現のためには息の長い運動が必要である。新しい世代の台頭に期待したい。



(塩浜 修)

本部と支部等の動き

12月8日 *関連事業「ポストMDGsと国際連帯税・金融取引税に関する国際シンポジウム ～貧困、環境破壊、格差のない次の時代をめざして～」青山学院
12月13日 第2回執行理事会 衆議院第二議員会館
12月14日-26日 青梅市中村美香写真展 市立美術館他
1月8日 豊中市 アイボリーホテル
1月18日 世界連邦21世紀フォーラム新年会
1月19日 札幌エルプラザ 子どもの心に世界平和の知恵と愛を

1月30日 スマイル中野 平和を考えるフォーラム支部勉強会
2月14日～17日 都庁第一本庁舎南展望室 45F 世界連邦推進全国小中学生ポスター作文コンクール
2月15日 新宿NSビル 3F 同コンクール表彰式
2月21日 第三回執行理事会

賀川ランドはできないか 徳島市での四国ブロック大会で議論

昨年10月5日、徳島市で世界連邦四国ブロック大会が開催された。全国でブロック会議があるのは四国だけ、4県の支部が順番に大会を開催している。第1回目が。東京オリンピック開催の前年、1963年だったから、50回目の記念すべき大会となった。

今回の大会で面白かったのは、参加者を交えた議論が広がったことだった。原発や環境問題、はてはエスペラント語にまで広がった。個人的に面白かったのは徳島支部の一人が発言した領土問題だった。

「徳島県は賀川豊彦の故郷、賀川ランドをつくれぬものか」

「つまり世界連邦の領土ということか」

「そういうことだ」

「確か、作家の北杜夫が自宅を領土としたマブゼ国を建国したことがある。架空の国家だが、どこかに、ここが世界連邦の領土だと宣言すれば面白い」

ここまでは現実の議論で、ここから先は帰りの車の中での議論だ。

「今日の大会は珍しく議論が盛んだったね。面白かったよ」

「そうそう、予定していた講師が来れなくなったため、議論の時間が生まれたんだよ」

「日本大会もそうだが、参加者が意見を戦わす場が全然ないのはおかしいよ」

「昔のブロック大会は泊まり込みで2日にわたって開催していたからそんな時間もあつた。サンデル教授の白熱教室みたいにやれたらいいね」

「さっきの議論の延長だけど、土佐市に使っていない農地が2反ほどあるんだけど、世界連邦の領土にしてもいいよ」

「えっ、それいいね。世界連邦領土なんて看板を立てれば話題になるかもしれないぜ」

「やろう、やろう。『高知県に初の世界連邦領土』なんて見出しでニュースになるかもしれない」

「土佐市自身がかつて世界連邦宣言しているんだから、全く問題ない。市長に提案してみようか」

こんな議論が車内で延々と続いた。そんな話は不真面目だと怒られるかもしれないが、本人たちはいって真面目なのである。大上段に世界連邦を振りかざしても誰も振り向いてもくれない。だから議論の引き金になる目に見える行動が必要だというのが共通認識である。

松山支部はこれまでも平和出張や授業作文コンクールに力を入れてきたが、昨年からは世界連邦の幟をつくった頻りに街頭に立っている。松山市内だけではなく、原爆の日には広島市に出かけ、東京で理事会があつた際には新宿でも街頭に立った。議論も大切だが、行動が不可欠というのが松山支部の考え。

今回の大会宣言では「次回開催地の高知で世界連邦四国八策（仮称）を策定する」ことを決めたことは大きな前進だった。

高知支部としては次回の大会から四国以外の支部からの参加を求めることになったことを報告しておきたい。

（伴武澄 四国ブロック会長）

* 四国ブロックのサイト

<http://www.yorozubp.com/wfmjkochi/shikoku/>

支部紹介 北海道支部のこと

北海道支部は、「世界連邦・北海道」と称し、荻野忠則支部長の下、熱心で純粋な人々が多く集まり、大変熱い運動を展開している。

国政選挙があるたびに、北海道支部の皆さんは北海道選出の議員のうち国会委員会に未加入の人全てに入会の勧誘をしている。現国会委員会会長の横路氏をはじめ、北海道出身の多くの議員がそういった働きかけによって入会している。実際、事務局の私が数回勧誘するよりも、地元からの働きかけの方が効果的である。

総会や執行理事会のたびに、北海道支部から提案をいただいている。せっかくの提案に対して、私が反対に回ったことも何度かある。時には私のような若造が、人生の大先輩である荻野さんに結構生意気な反論をぶつけたこともある。それでも荻野さんは優しい微笑みを絶やさず、「ありがとう」「ご苦労さま」と私や若手スタッフに声をかけている。現在、東京など北海道外からあえて北海道支部に所属している方々がいる。1つには、その中心になっている人が元々北海道に縁があったという経緯もあったようであるが、やはり荻野さんをはじめ北海道の皆さんの人柄が素晴らしいという面も大きいのだと思う。今は亡き植木光教前会長が北海道で講演した時に私も参加したが、植木前会長も北海道の皆さんの前で

議員関係会員の集いから

いつも以上に気持ちが熱くなって語っているのを感じた。



執行理事会や総会が終わると、公式の議事録ができるよりも早く、たいていは1～2日のうちに荻野さんが報告書を作り、北海道支部の人に情報を伝えている。また、年に数回にわたって北海道支部から相当な文字数の小冊子が届く。大変な熱意である。

最近、北海道支部は「女性会員の集い」「議員関係会員の集い」「青年・壮年会員の集い」「教職経験会員の集い」「読書会」という形での会合をもっているようだ。そのように共通性のある人々ごとに集まることで、参加者が増えたり、話し合いが盛り上がりたりという効果があるのではないかと推察している。

北海道支部の姿勢には見習うべき点が多い。私も個人的に学ばせていただきたいと思っている次第である。

(塩浜 修)

世界連邦標語入賞作品

2013年10月31日を締切にして募集された世界連邦標語には、全国から207点の応募があった。これらの作品を海部俊樹審査委員長の元、宇都宮憲爾、日下部禧代子、税所涼子、木戸寛孝、松香光夫各氏を審査委員として、各委員が応募者匿名の作品リストからそれぞれ一次審査を行った。

結果を整理して、1月9日に参議院会館にて審査委員会を開き、総合得点を元にして、最優秀賞1点、優秀賞3点、入選10点を決定した。最優秀作品を応募された内河裕信氏は、この作品だけでなく優秀作品、入選作品にも名を連ねており、審査委員一同をうならせる結果となった。今後は、このわかりやすい標語を大いに生かして、私たちの目指す世界連邦の概念を広め、仲間を増やしていくようにしたい。(松香 光男)

最優秀	国を超え 手と手をつなごう 世界連邦	内河 裕信
優秀	戦争は しないさせない 世界連邦	内河 裕信
優秀	世界連邦で 核廃絶と 人類共生を	岡山県支部匿名希望
優秀	国を超え 地球を守ろう 世界連邦	内河 裕信
入選	世界連邦は 未来へ続く 希望の光	山内美恵子
入選	つくろうよ ひとつの世界 連邦で	内河 裕信
入選	地球は一つ 笑顔をつなげ 世界連邦	山本 篤
入選	あなたの参加が、世界の平和を創る	谷本 真邦
入選	和の国・日本 和の星・世界連邦	塩浜 修
入選	あなたとつくる 平和への道 世界連邦	稲見 圭紅
入選	認め合い 支え合う ひとつの地球へ	朝倉 修
入選	地球の平和 世界連邦の建設で	平岡 五城
入選	地球市民の パスポート 世界連邦	塩浜 修
入選	この子らの 笑顔を守ろう 世界連邦	内河 裕信

編集後記 ★ユースフォーラム支部、平和を考えるフォーラム支部の再活性化を図っている。この運動を次の世代に引き継ぐために頑張りたい。(塩浜)★本年もどうぞよろしくお願いいたします。2014年が皆様にとりまして素晴らしい年になりますように。(阿久根)★皆さんのおかげでこのところニュースレターの内容が充実してきたことは嬉しいのだが、ニュースレターはあくまでも会員内でのやりとりである。今年は外に向けた広報活動に向けて努力したいと思っている。(伴)

あなたも世界連邦運動協会の会員になりませんか

入会希望の方は、住所・氏名・電話番号・メールアドレスをお書きの上、郵送またはFAXにて下記の本部事務局へお申し込み下さい。

世界連邦運動協会 〒110-0015 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル 3F

電話 (03) 6803-2114 FAX (03) 6803-2117

普通会員/年額 5,000 円 維持会員/年額 10,000 円 賛助会員/年額 15,000 円

第42回世界連邦推進全国小中学生ポスター・作文コンクール優秀作品展のご案内

【日 時】 2013年2月14日(金)～2月17日(月) 午前9時30分～午後5時

初日は12時から。最終日は午後3時まで展示。 ※土日は午前10時から午後5時。

【展示作品】 ポスター入選作品：文部科学大臣賞 特賞 湯川スミ賞 入賞 佳作
作 文：文部科学大臣賞 特賞 湯川スミ賞

【場 所】 東京都庁第一本庁舎 45階南展望室 (東京都西新宿 2-8-1)

「JR 新宿駅」(西口から徒歩約10分)、都営地下鉄大江戸線「都庁前駅」

【表彰式】 2014年2月15日(土) 午後2時

新宿 NS ビル 3F 3H 会議室 (東京都新宿区西新宿 2-4-1)



文部科学大臣賞
海津市立海西小学校 6年
浅野 桃香さんの作品

世界平和と環境問題
世界連邦をテーマに
都庁南展望台で開催!